

名前

いちごドリルプリント

答え合わせ・解説

問1	答え 1 運慶	鎌倉時代には、武士のたくましい気風を反映した芸術が発展しました。運慶は快慶らとともに、東大寺南大門に現存する巨大な金剛力士像を制作しました。この像は筋肉の躍動感などを捉えた写実的な表現が特徴で、当時の新興勢力であった武士階級に合致していました。選択肢にある世阿弥と観阿弥は室町時代に能楽を大成させた人物であり、雪舟は室町時代に水墨画を確立した人物です。
問2	答え 4 禅宗	鎌倉時代には、不安な社会情勢を背景に、それまでの貴族中心の仏教とは異なる新しい仏教が誕生しました。禅宗は、複雑な経典の読解よりも、座禅という厳しい修行を通じて自己の精神を鍛えることを重視しました。この「自力」で悟りを目指す姿勢が、生死をかけて戦う当時の武士の気風に合致したため、鎌倉幕府の北条氏らによって厚く保護され、発展しました。
問3	答え 2 平家物語	平氏の繁栄と没落を仏教的な無常観に基づいて描いた代表的な軍記物語です。文字が読めない人々にも、琵琶を弾きながら語る琵琶法師の活動を通じて広く普及しました。
問4	答え 2 平家物語 ― 軍記物語	壇ノ浦の戦いなどの実際の合戦を題材に、武士の活躍や悲劇を描いた文学作品は軍記物語と呼ばれます。平氏の滅亡を描いた『平家物語』はその代表例であり、鎌倉時代に成立しました。
問5	答え 3 十字軍 ― エルサレム	11世紀末、セルジューク朝（イスラム勢力）の進出によって脅かされた東ローマ帝国からの要請を受け、ローマ教皇ウルバヌス2世がキリスト教の聖地エルサレムの奪還を呼びかけました。これに応じて組織された軍隊が十字軍です。メッカやメディナはイスラム教にとっての聖地であり、今回の奪還目標ではありません。
問6	答え 2 フビライ＝ハン	チンギス＝ハンが築き上げた広大な帝国を引き継いだ孫のフビライ＝ハンは、中国の伝統的な王朝の形式を取り入れ、国号を「元」としました。都を草原地帯のカラコルムから、農耕社会との接点である大都へと移したことで、中国支配をより強固なものにしました。なお、チンギス＝ハンは帝国の創始者であり、袁世凱や蒋介石は近代中国の指導者です。
問7	答え 3 諸行無常	平家物語の背景には、当時の社会不安や戦乱の影響から生まれた「無常観」という仏教思想が強く反映されています。万物は流転し、栄華を極めた者も必ず衰えるという「諸行無常」や「盛者必衰」の考え方は、平氏の繁栄と没落を描くこの物語の根幹をなすテーマとなっています。
問8	答え 1 白河上皇が院政を開始したあと、平清盛が武士として初めて太政大臣に就任した。	平安時代末期には、まず白河上皇によって院政が開始されました。その後、力を伸ばした平清盛が武士として初めて太政大臣となり平氏政権を確立しました。したがって、白河上皇の院政開始が先で、平清盛の太政大臣就任が後となります。
問9	答え 1 エルサレム	キリスト教においてイエスが処刑され復活した場所とされる聖地です。ユダヤ教やイスラム教にとっても重要な聖地であり、長きにわたる宗教的対立の焦点となりました。
問10	答え 3 守護	御成敗式目では、守護の職務を「大番催促（警備の動員）」「謀反人の追捕」「殺害人の追捕」の三ヶ条（大犯三ヶ条）に限定し、それ以外の行政や司法への介入を制限しようとした。これに対し、地頭は各荘園・公領に配置され、土地の管理や年貢の徴収を担当しました。法を定めることで、これらの役職の権限を明確にする目的がありました。
問11	答え 3 北条氏が将軍の補佐を名目として就任し、幕府の政務や裁判を統括して実質的な権力をふるった。	源頼朝の死後、妻の北条政子の実家である北条氏が、将軍の権限を代行する形で政治を動かすようになりました。これが「執権政治」です。選択肢にある足利氏による補佐役は室町時代の「管領」であり、執権はあくまで鎌倉幕府における北条氏独自の政治体制を示す言葉です。
問12	答え 3 異国警固番役などで出兵した御家人に対し、幕府が十分な恩賞を与えることができず、御家人の不満が高まった。	元寇は外国からの侵略を防ぐ防衛戦であったため、勝利しても新たに獲得できる領地がありませんでした。そのため、異国警固番役などで自費を出して戦った御家人に対して幕府は十分な恩賞を与えることができず、御家人の不満が強まって幕府衰退の一因となりました。
問13	答え 2 金剛力士像 ― 運慶・快慶	鎌倉時代初期、平氏の南都焼討によって焼失した東大寺の復興が行われました。このとき、重源の勧進により、運慶や快慶ら慶派の仏師たちによってわずか69日間で完成されたのが金剛力士像です。この像は阿形と吽形の2体一対で構成されており、筋肉隆々の力強い造形が、当時の新興勢力であった武士の気風を反映していると評されます。
問14	答え 4 武士の気風を背景に、寄木造の技法を用いて、力強く生き生きとした肉体を表現した。	鎌倉文化は、源平の争乱を経て武士が台頭した時代背景を強く映し出しています。東大寺の再興事業において、運慶や快慶は複数の木材を組み合わせる「寄木造」の技法を駆使し、解剖学的にも正確で力強い肉体美を短期間で作り上げました。これに対し、優雅な表現は平安文化、唐の影響は奈良時代の天平文化、神秘的な微笑（アルカイック・スマイル）は飛鳥文化の特徴です。
問15	答え 2 武士が政治の主役となり、将軍と御家人の間で土地の仲介による主従関係が結ばれた。	中世は、鎌倉幕府の成立に代表されるように、武士が自らの土地支配を確実にするために組織化された時代です。将軍が臣下の領地を保証し、臣下が軍役などの奉公を果たす「御恩と奉公」の関係は、中世社会を象徴する封建的な仕組みです。これに対し、律令制度は古代、版籍奉還は近代、町人文化の隆盛は近世の特徴です。